

平成 25 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4075500415		
法人名	医療法人 安倍病院		
事業所名	医療法人 安倍病院 グループホーム みどりの里		
所在地	宮若市長井鶴230番地		
自己評価作成日	平成25年7月22日	評価結果確定日	平成25年8月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年7月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

病院が母体のため、病院との連携や入居者の状態を毎日主治医に報告し、いつでも受診できる体制が整っており、安心して生活が送れる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開所10年目になり、入居者が重度化しつつあるが、2年毎に実践しやすく自分達の理念にしたいと、8月からの新理念として、「地域との交流と個別性を尊重した一人ひとりに応じた介護の向上に努めたい」を創り上げている。退院された入居者に、以前のように元気になってほしいとの職員の思いが一丸となったチームケアで、自力で食事を摂り、褥創も完治し、車椅子で自走できるまで回復している。また、ストーマもありおむつで入居された方も、現在はハビリパンツになりトイレで排泄されるまでになっている。職員たちはこうした成功体験にやりがいを実感し、更に質の高いケアの実現を目指し、新しい理念の具現化に取り組んでいる。そして、ボランティアの来所もある茶話会は、町内会長から「茶話会の案内を町内の掲示板に貼りだしては」等の意見があるほど好評で、家族や地域の方々との継続した交流からも、新理念の実践が期待できる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **Bユニット/みどりの里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に運営理念の唱和を行い、共有を図っている。	各ユニット毎に理念を掲示している。2年毎に実践しやすく自分達の理念にしたいと、見直しを話し合っている。8月からの新理念として、「地域との交流と個性を尊重した一人ひとりに応じた介護の向上に努めたい」を創り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関を開放していつでも立ち寄りいただける環境作り心がけている。地域の運動会の見学やボランティアの方にホームに来ていただいている。	2年に1回公民館で行われる運動会や、どんど焼きへ見学に出かけている。毎年開催される市の福祉祭りにも参加し、2ヶ月毎の茶話会等でのボランティアの演奏や踊りなどを楽しみにしている。	運営理念に沿って、外出が困難な入居者のためにも、地域の伝統ある夏祭り、祇園祭りの神輿の巡行や盆踊りなどの受け入れを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して、市で行われるお祭りに参加し、物品販売や啓蒙活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い会議の内容をホーム内に掲示している。	町内会長、地元民生委員、家族代表、地域包括センター職員等の出席で2ヶ月ごとに開催している。整備した会議録をホーム内に開示している。町内会長から「茶話会の案内を町内の掲示板に貼りだしては」等の意見が出ている。	活発な意見交換できるように、参加者と個人情報の保護や守秘義務を記載した書面の取り交わしを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員や地域の区長・民生委員・入居者のご家族に参加していただいている。	市担当者から、居室状況の問合せや年末の餅の配布などがある。地域同業者協議会のGHみやわかの研修等で顔馴染みのため、相談しやすい。また、徘徊ネットワークの連絡網で、緊急時の連絡や問い合わせがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵を閉めるなどの拘束は行っていない。	職員間ではつい「待って」「だめ」など言葉による拘束をしがちであると自覚し、理由を話して待ってもらうなどの普通の対応をしている。ベット柵は起き上がる時、掴まるために使用している。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は起きていないが、防止策として職員のストレスがたまらないように話し合いや勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し職員の理解を深めるために資料を回覧している。	パンフレット、相談窓口などの紹介資料を整備し、玄関ホール事務所に目に付きやすく掲示している。現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問や不安に思うことは十分説明し、納得された上でサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム・苦情などがあった場合はカンファレンスを開き職員間で話し合いを行っている。	2ヶ月に1回家族会を、その他の月には茶話会の開催し、家族や入居者の意見を伺う機会を設けている。意見や要望は、カンファレンスで相談している。家族には3ヶ月毎に担当職員が「ご様子伺い」を送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回カンファレンスを開き、入居者の介護に関することやホーム内の行事に関する意見交換をする場を設けている。	定例のカンファレンスではケアについて検討したり、運営理念の見直しや企画担当の取組みや物品購入等を話し合っている。係りによる昼食後のリレーションが実践され、花壇用の花苗や展示ボード等を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や職員のスキルアップに応じて給料アップに心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別を理由にすることなく、募集採用を行っている。	併設病院の人事課で職員を採用している。人事異動で病院からグループホームへの配置が決まっている。研修希望や資格取得にはシフトが配慮され、取得後に費用助成がある。事務室を休憩室として使用し、交替で昼休みを取っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	講演などに参加し資料作成し、職員が人権意識を高めるように努めている。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備し、周知に努めている。また、GHみやわか研修会に2名の職員が代表で参加し、伝達講習で情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月病院で行われている研修に参加したり、地域のグループホームでの研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月GHみやわかで同業者との交流する機会や勉強会を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何か困ったことがないか、こちらから声掛けをし、訴えがあるときは話をよく聞く。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会に来られた際は、積極的にコミュニケーションを図るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態を知るために主治医やケアマネに話を聞き、入所前に本人やご家族の要望を聞くようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話の中で昔の話をしたりして、入居者の生活歴を知り、信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られて時や家族会の時に情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が病院の通所リハに参加されているので、遊びに行ったり、GHをいつでも面会できるように開放している。	家族と一緒に墓参りや外食に出かけたり、馴染みの美容室に行く入居者もいる。出かけられない入居者もあるが、親戚や友人の来訪を喜ばれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠く会話が出来ない時など職員が間に入りコミュニケーションがとれるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで関わりを必要とする例がないが、病院との関係がある為要望など聞ける体制にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり、意向の把握に努め職員間で情報交換を行っている。	言葉で意向を表すことが難しい入居者が多くなっている。家族会や茶話会などで、家族と一緒に折に情報を共有し、入居者の表情等から意向や思いの発見に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に生活歴を聞いたり、コミュニケーションをとり、その人らしい生活を送れるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りを行い、記録の確認をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の要望を聞き、ケースカンファレンスをする事で入居者のニーズを見つけ出せるようにしている。	吐血し入院されたが、褥創が出来る程に栄養・体力が低下し、全介助となって退院された入居者を、以前のように元気になってほしいとチームで支援している。自力で食事を摂り、褥創も完治し、車椅子で自走できるまで回復されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤した職員が記録をし、前日の状況を知る為に記録の確認を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じ、買い物に行ったり、電話をかけたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度ボランティアの方の踊りの慰問などきていただいている。また、消防署の協力で、年2回火災訓練を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝ドクターへ入居者の状況報告をし、週1回ドクターによる往診も行っている。	併設医療機関もあり、毎週定期的な訪問診療、バルンカテーター交換、眼科受診を支援している。専門医療機関の受診は、家族にお願いしているが、近くの歯科受診など支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝ナースへ状況報告をし、体調変化時にはすぐに報告し指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院系列なので、何かあれば連絡できる体制ができている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に看取りに関する説明を行い、出来るだけGHで介護させていただいている。最終的には、主治医の指示に従っている。	入居時に看取りに関する同意書を取り交わしている。看取りを希望される方には、出来るだけ経口摂取、緩和ケアで支援し、状況に応じて家族、主治医との話し合いをしている。最後は病院での家族の思いを重視し、急変時でも直ぐに併設病院に搬送している。現在まで、ホームでの看取りまだない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の時は病院と連携できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行っている。職員は初期消火・通報の仕方がわかるようにしている。非常食を3日分用意している。	避難訓練時の反省や消防署の指摘を検討し、緊急通報器に、住所を明記し改善している。救急蘇生法やAEDの研修を受講した職員が、伝達講習している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の時などは、周りに配慮した支援をしている。	廊下の壁にプライバシー保護の誓いが掲示され、職員は常に心に留めるように努めている。入居者の尊厳や羞恥心を配慮した声かけで、さりげないトイレ誘導をしたり、食事介助の必要な方の座る位置などに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をできるだけ尊重し、その人にあった支援ができるように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、無理強いやせず生活できるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ベットから離床する時などは髪をとくなどしている。一部入居者はなじみの店はカットに出かけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや簡単な食事の準備を手伝っていただいている。	調査日は誕生会で、彩り良く盛られた松花堂弁当が並んでいた。スプーンで食べ難い方には容器を移し変え、各自のペースで完食されている。入居者の状況に合わせて席を決め、嚥下状態で、キザミ食、トロミ食、おかげ等準備している。声かけや誘導で自力での食事摂取を支援している。「美味しかった」と空容器を職員へ手渡す入居者もいる。職員2名が伴食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて、副食をキザミにしたり一口大などに切ったり、嚥下の悪い方にはトロミを付けたりしている。食事量をチェックや水分量のチェックを記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の人は定期的に交換を行い、パンツの人は、その人の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。	職員は担当制であるが、排泄チェック表で全職員が個々の排泄パターンやサインを共有している。さりげない声かけや誘導で排泄の自立を支援している。ストーマもありおむつで入居された方も、現在はハビリパンツを使用し、トイレで排泄されるまでになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気をつけている。必要な方は主治医の指示の下で下剤を服用され、それでも出ないときは主治医の支持の下で浣腸を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1日おきに入浴していただき、入浴時間は決まっている。失禁などで汚れた場合は、いつでも入浴できる。	ホワイトボードに入浴順番を表示し、平等になるようにしている。重度化した入居者が多くなり、2人体制で週2回の入浴を支援したり、失禁等はシャワーや清拭をしている。気分が入浴を拒否される入居者もあるが、無理強いせず清拭に変えたりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせて入眠していただき、入眠時間は決まっていない。夜間1時間おきに巡回を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の説明書をもらい、いつでも見られるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の簡単な準備や洗濯物たたみなどのお手伝いやレクリエーション時に歌を歌ったり手遊びをしたりして頂き、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は少ないが、天気の良い日に車椅子で散歩に出かけたり、通所リハでの慰問の見学に出かけている。	重度化で全員での外出は難しいが、系列法人のデイケアの車を借りて出かける初詣や花見は、恒例になっている。隣接医療機関の受診時やリハビリに車椅子で通う入居者とは、季節の花や果樹の熟れ具合を楽しみに、外気浴を兼ね散歩をしている。また、家族と外出し、外食される方もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご自分で管理できず、GHでかんりしている。一部の方がお小遣い程度持っておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ボタンを押して電話をかける援助を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に季節の草花を植えている。また、ホームの外に木を植えてプライバシー保護と日よけになるように工夫している。	各ユニットとも中庭の周りに広い廊下があり、居室が設けられている。中庭に面した窓際にソファと木製のベンチがあり、居室に行くまでに寛ぐ場所になっている。高い天井の共用空間は明るく、中央に厨房と居間があり、畳敷きの一角はボランティアのステージになっている。空調や換気が管理され、共用空間で職員や入居者同士で会話が弾んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、日向ぼっこやおしゃべりできるスペースを作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使っていたタンスやご家族の仏壇を持ってこられている方もいる。	それぞれの用途に応じて3種類の居室がある。トイレ付の居室や、入居者のADLに合わせて電動ベッドの高さを調節したり、ベッド柵やポータブルトイレを配置している。使い慣れた籐椅子等の愛用の家具や仏壇を持参したり、家族用のベッドなど置かれた居室もある。引き戸の入口には、表札とデイケアの利用者が作ったピエロの人形が部屋の目印に下げられている。避難時には、避難した目印にピエロを外す事を決めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることはご自分で出来ないことは援助し、残存機能を活用していただいている。		